広告特集 企画・制作 朝日新聞社 メディアビジネス局

朝日地球会議2016

「朝日地球会議2016」で多くの来場者から注目を集めた凸版印刷の『やるKey』。この新しい教育ツールがなぜ今、多くの教育関係者から関心を集めているのか？その開発の背景と魅力に迫ります。

10月2日 朝日地球会議2016テーマ別セッション

次世代リーダーに聞く！「教育IT化で授業が変わる、先生も変わる」

教育格差という社会課題の解決を目指して

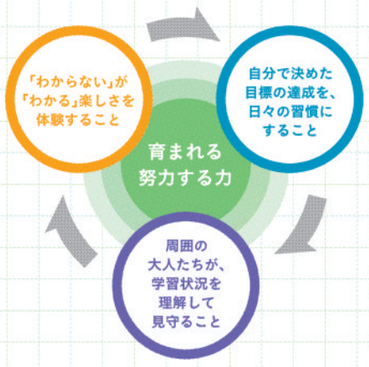
ICT（情報通信技術）を活用した学習指導の重要性を文部科学省が掲げている現在。「努力する力」を育むデジタル教材『やるKey』について、開発した凸版印刷 教育ICT事業開発本部 菊地本部長が講演しました。

「凸版印刷は1900年の創業以来、原点である印刷術を発展させ社会的課題の解決のため、トータルソリューションの開発・提供をしてきました。現在たいへん多くの子どもたちが『経済格差が教育格差を生む』という大きな社会問題に直面しています。そこでグループ企業である東京書籍と学校図書に教科書作りのノウハウの支援を受けながら、子ども一人ひとりの学習を状況に合わせて個別にサポートするタブレットを使った学習サポートサービス『やるKey』を開発しました。

『やるKey』は、これからの社会を生き抜くために必要な子どもたちの『努力する力』を養うために、3つのことを大事にしています。

菊地本部長講演「やるKeyの実践から」

〈やるKeyが大切にする3つのこと〉



子どもの理解度に合わせて課題を提供するレコメンド機能や目標を予め設定する目標管理機能などを備えています。さらに解答の正誤だけでなく、取り組んだ問題数や学習時間などの結果を蓄積し、グラフや図表で可視化することで、教師がより適切な指導が行えるようにサポートしています。

現在30以上の自治体で実際に使われており、さまざまな成果が出始めています」

やるKey 6つの特長

簡単！単元チョイス！
授業の進度に合わせ、先生が解かせたい単元だけの出題が可能です

目標設定
目標クリアで感じる達成感から自主的な学びへ導きます

自動採点
先生の負担をぐっと減らし、児童も待つことなくどんどん進めます

苦手発見＆克服
解答から「つまずきポイント」を特定、苦手を克服する問題を自動で配信します

理解度可視化
児童一人ひとりの進行状況、理解度を一発閲覧できます

ごほうびアクション
児童の「もっと解きたい！」が続く工夫でやる気を引き出します

TOPPANのデジタル教材「やるKey」が育む「努力する力」

特別対談

先生と児童の理想的な関係と教育を実現するために

『やるKey』の導入をいち早く決めた東京都福生市教育委員会を代表する川越孝洋教育長に『やるKey』がどのように運用されているのか、どのような結果をもたらしているのか、開発者である菊地尚樹本部長がお話を伺いました。

福生市教育委員会 教育長 川越 孝洋 × 凸版印刷株式会社 教育ICT事業開発本部 本部長 菊地 尚樹

子どもの学力向上を目指すという目的が一致

菊地 私たちは子どもたちのやる気を引き出し、学習の質と量を高め、学力向上を図ることを目的として『やるKey』の開発を進めてきました。ただ実際の教育現場ではどのように使われ、どのような効果があるのかは未知数だったので、福生市との出会いをありがたいと感じています。

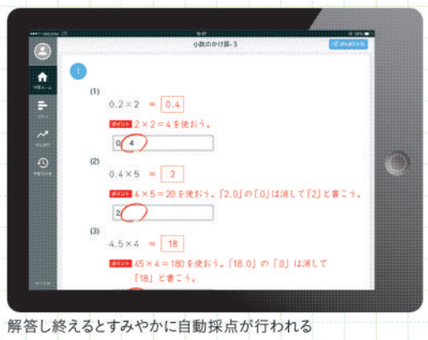
川越 『やるKey』は「子どもの学力向上」という行政と学校、そして教師の目標と一致していて、待ち望んだ教育ツールと出会えたという感動がありました。学力向上というと、教員の資質向上ばかりに目が行きがちですが、子どもは、一人ひとり環境も異なれば、成長のスピードも違います。これまでは、教師が熱心に授業をしても、学習内容が子どもたちに定着していかないという現実がありました。これまでのやり方だけでは限界があったのです。

菊地 先日の公開授業で、『やるKey』を使って家庭学習と教室での勉強を見事に連携させた授業を拝見して、改めて先生の「授業力」に大変感動しました。

川越 子どもは、条件を整えれば向上していくことが実感できましたよね。『やるKey』には、創造的に子どもたちの力を引き出すための工夫が至るところにされているし、その結果、教師の力も引き出せたと思っています。

菊地 先生たちが子どもたちの机を回る時間、子ども一人ひとりに接している時間が多かったのが印象的でした。

川越 学校は、未履修が発生してはいけないシステムなので、ある一定の期間に一定量の授業を進めていかなければなりません。しかし、一つの単元を理解するのに多くの時間が必要な子どももいる。現場の教師は、個と集団の指導を両立させなければならないというジレンマをいつも抱えていました。


解答し終えるとすみやかに自動採点が行われる

デジタルで可視化することで信頼関係も築いていける

菊地 『やるKey』は、子どもの解答からつまずきポイントを特定し、苦手なものを克服するための問題が提示されるようになっています。

川越 どこでつまずいているのかが即時に可視化できるのはデジタルの強いところですよね。『やるKey』は遅れている子を補完してくれていると思います。これまでなら、教師が、そのつまずきのある前の単元のプリントを職員室に取りに行くなどして、一人のために10分潰れてしまうようなこともあったでしょう。しかし自動で補完してくれるから、学習規律を壊さないで授業を進めていくことができる。また教師からすれば、子どもの頑張りのプロセスがわかりやすいのも利点です。何点だったかという結果だけではなくて、頑張ったプロセスをちゃんと見守ってもらえることで子どもも教師との信頼関係が築いていける。信頼というのは教育の基本だと私は考えているので、『やるKey』によって強固になっていくことをうれしく思っています。

菊地 お子さんたちの声。先生の声。それらを集めて、より学びの場に生きるものをこれからもご提供していきたいですね。

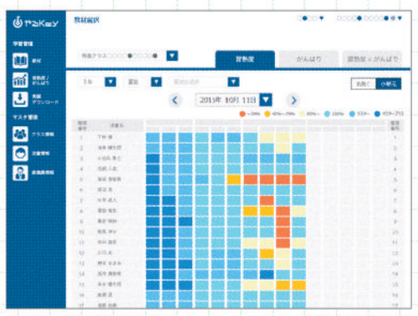
産学官連携で実現『やるKey』のエビデンス取得

川越 我々は、大切な税金で子どもの教育を行なっていますから、本来であれば、そもそも一つの事業がどういう成果をもたらしているのか、費用対効果を検証していかなければなりません。今回、産学官連携で慶應義塾大学の中室牧子准教授にも関わっていただいていますが、中室先生が提言してくださっているように、エビデンスベースで判断することが今後、もっともっと求められていくと思っています。先日、『やるKey』を用いた効果測定の暫定的な研究結果が報告されました。その中で示されたエビデンスの一つは、子どもたちの学力の上昇が見られること、二つ目は学習時間が増加し、学習意欲も改善しているということです。これからは、これらのエビデンスを元にもっと積極的に施策化していかなければと思っています。その一方、保護者の役割と関わりについて、家庭の教育向上に繋がる要因も見逃せないと考えます。

子どものつまずきがわかり、教師は適切に個別指導が行える

菊地 非認知能力の育成にも効果が見られると教育長はおっしゃっていますね。

川越 はい。『やるKey』には目標管理機能があることで、中室先生の提唱されるやり抜く力、自制心の育成になり、集中力が高まっていることが考えられます。


子どもの学習状況が把握しやすいように可視化され閲覧できる

菊地 非認知能力の育成に『やるKey』が優れているというご意見は嬉しい限りです。

川越 『やるKey』を利用している小学三年生の女の子が発した「いつも先生がそばにいるみたい」。この言葉が『やるKey』のよさを物語っているのではないでしょうか。